

岡山大学病院で働く さまざまな職種をご紹介します~♪

今回の増刊号は、皆さんに岡山大学病院のことをもっと知ってもらうために、当院で働くさまざまな職種の方をピックアップし、それぞれの仕事を紹介しながら当院を支えるスタッフからのメッセージを幅広くお届けします。

move on

★ 言語聴覚士

(総合リハビリテーション部) 藤田隼平さん

こんにちは！私たち言語聴覚士は通称STと呼ばれるリハビリテーション職の1つです。主に胸から上が担当です。口とのどを使って喋る・声を出す、食べたり飲んだりする、脳の機能全般(言語力・記憶力・集中力など)の訓練をしています。他にも幅広い年代の聴力障害に対する補聴、口唇口蓋裂がある場合の話し方練習、小児の発達障害を専門に行ったりもします。

伝えたいことが伝わった時や、少しでも食べたり飲んだりができるようになった時の患者さんの笑顔を見ることが1番嬉しいです。小さな変化にも気づけるようにアンテナを張って、1人でも多くの笑顔が見られるように頑張っています。



★ 助産師

(入院棟東4階) 佐々木麻裕さん

左が佐々木さん

私は助産師として産科病棟で産前産後のお母さんたちや、赤ちゃんのケアをしています。お産は本当に人それぞれで、刻々と変わる状況の中で助産師として判断を求められ、大変なことも多いです。でも、お産の時に関わったお母さんが、2人目、3人目を産みに来られたときに顔や名前を覚えてくれていると、とても嬉しくやりがいを感じます。

岡大ではハイリスクな妊娠出産が多く、思い通りにいかない妊娠経過をたどったり、大変なお産をされる方も多くおられます。それでも「頑張って岡大で産んで良かった」と思ってもらえるように日々関わっていきたいと思います。

★ バイオインフォマティシャン

(ゲノム医療総合推進センター)

富田 秀太さん



皆さん、こんにちは！私は情報処理や統計解析の専門家「バイオインフォマティシャン」と呼ばれています。生体由来の膨大な情報(バイオメディカル・ビックデータ)を高速な

コンピューターを使って解析するのが仕事です。その「特技」を生かして、遺伝子(ゲノム)情報の解析を行い、岡山大学病院のがんゲノム医療のサポートをしています。

また、新しい治療の開発を目指した研究もしていますよ。今までに知られていない新しいメカニズムが解明できた時はとてもワクワクします！これからも研究と臨床現場を結ぶ仕事に取り組みたいです。

★ 視能訓練士

(医療技術部検査部門) 金永 圭祐さん

視能訓練士は眼科の検査を行う国家資格です。視力や眼圧、視野検査、眼底検査、斜視弱視検査などを担当しており、眼科における専門技術職として7名の視能訓練士が眼の健康を守るお手伝いをしています。今年度から主任となり試行錯誤の日々ですが、皆に支えてもらいながら奮闘しています。

やりがいを感じたのは、患者さんから「先生に検査を担当してもらえて良かった」と言ってもらえた時です。時間が長くかかる検査もありますが、声掛けや休憩を取るなどして患者さんの負担にならないよう意識しています。その取り組みが伝わり嬉しい気持ちになりました。



★ 臨床検査技師

(医療技術部検査部門) 桂 由美さん



私は一般検査室で、尿・便・体腔液(胸やお腹に溜まった液)等の検査を行っています。その中でも、血液から作られる尿は腎臓や全身状態を簡単に知ることのできる素晴らしい材料であり、顕微鏡をのぞくと、感染がある！腎臓に障害がある！がんの疑いがある！ことなど推測できます。私達の報告から、診断、治療に繋がることもあり、患者さん

が早く適切な治療を受けられるよう日々頑張っています。それに加え、生命の神秘を間近で感じることのできる不妊治療にも携わり、治療される方を手助けできる存在でありたいと思います。

★ 臨床心理士【公認心理師】

(医療技術部検査部門) 堀内 真希子さん



心の専門職の国家資格が誕生しました！
(2015年9月公認心理師法成立、2017年9月施行)

現在、当院では9名の「公認心理師」が、主に精神科神経科、小児神経科、小児科、小児心身医療科、ジェンダーセンターにおいて、幼児から高齢の方までの心理検査、心理療法に従事しています。精神科リエゾンチームでは、入院されている方の心のケアを担当しています。「こころの声」にも「からだの声」にもじっくり耳を傾け、聴くことが心理師の仕事です。話せてよかった、聴いてもらって楽になったと思っただけでも精進してまいります。

★ 作業療法士

(総合リハビリテーション部)

小川 加苗さん



作業療法士(OT)は、体や精神機能の向上や日常生活動作(食事・トイレ・着替えなど)の獲得を目標にリハビリをしています。手指など小さな関節の手術後や急性期からの早期離床・トイレ練習のほか、自宅退院に向けたリハビリを常に他職種と連携しながら行っています。精神科せん妄カンファレンスにも参加して情報共有をしています。

最近では麻痺した利き手の作業療法を行って箸が使えるようになり、患者さんと一緒に喜ぶことが出来ました♪日々の変化に毎日刺激をもらいながら、小さな喜びの積み重ねを患者さんとリハビリの時間で共有できる職種だと思います♪

★ 事務職員

(医事課医療連携係) 楠木 未花さん

全国の医療機関より紹介され、当院の外来予約を調整する係に所属していて、私は初診予約担当係です。医科/歯科を含め様々な申し込みがあり、また病気や目的により診察の曜日と担当する先生が決まっている事が多く、なかには患者さんの希望にこたえるのが難しいのも現実です。ルールに添っての予約取得となり、時には数日待っていただくような場合もあります。そのほかにも、セカンドオピニオンや色々な仕事をしています。とても少ない人数でこなしていますが、専門性の高い大学病院の特色を最大限に生かし、地域の架け橋となれるように、全員で取り組んでいます。



前列中央が楠木さん

多職種紹介スペシャル!

★ 診療情報管理士

(医事課システム支援係) 藤井 普子さん

診療情報管理士は、直接診療に関わるのではなく、診療に関わる方々のサポートをするのが仕事です。病院内には様々な事務部門に診療情報管理士がいます。その中で私は、医事課システム支援係で病院職員の皆さんが普段使用されているカルテ等のシステムに関するサポートを行う仕事をしています。職員の皆さんと医療情報部の先生方や業者の方々と連携して、円滑な診療を行っていただけよう調整をすることが、主な仕事です。これからも、システム対応の橋渡し役として、患者さんや病院に貢献できるように努力していきます。



★ 歯科技工士

(医療技術部 歯科部門)

太田 圭二さん

モノづくりの歯科技工士の仕事もデジタル化により大きく変化してきました。CAD/CAMシステムに代表される最新のデジタルツールを駆使し、PC画面上で補綴装置のデザインやプランニングをすることはすでに主流となっています。3Dプリンターで製作される頭蓋骨や肋骨の実物大3Dモデルは再建手術のシミュレーションなどに利用されます。技工室は歯科に特化しておらず、モノづくりのプロとして各分野に貢献しています。欧米ではスタンダードになりつつある口腔内スキャナーの普及で、印象採得(型取り)することのない冠や入れ歯の製作・装着はすでに日本でも始まっています。



★ 認定看護師

(感染制御部) 宮村 純子さん



右から
2人目が
宮村さん

私は日本看護協会の認定を受けた感染管理認定看護師という資格を持っていて、専従として業務をしています。感染管理業務っていったい何をしている看護師なの?と思われる方もいらっしゃるかもしれませんね。病院に出入りされるすべての人々を医療関連感染から守る「感染制御部」という部門があります。その中で私は、看護師ならではのチームの調整役、院内の相談全般、指導・教育を主に行っています。専門職として根拠に基づいて業務を行うことにやりがいを感じています。毎年秋には、手指衛生啓発活動であるポスター展も実施していますよ。今年は新型コロナウイルスの対応で光陰矢の如しです!

★ 理学療法士

(総合リハビリテーション部) 大塚 貴久さん

理学療法士は、患者さんの運動機能(関節・筋力など)を回復させる職種です。例えば、五十肩で挙がらない肩を挙げやすくしたり、腰痛の患者さんを治したりと、理学療法士は自分の手がとても重要な道具となります。私は救急科を担当しており、人工呼吸器などの生命機器が装着されている患者さんが多く、早期から身体機能の回復や予防を担っています。そういった患者さんが車椅子に乗ったり、歩くことができるようになると、とてもうれしく、とてもやりがいを感じています。私は担当している患者さんが1日1回は笑顔になれるよう、常に感動を分かち合うようにしています。昨日より進歩したこと、会話の中での面白い話など患者さん一人一人の笑顔を見ることが自分の感動ポイントです。



大塚さん

★ 臨床工学技士

(臨床工学センター) 平山 隆浩さん

皆さんは、臨床工学技士(Clinical Engineer: CE)をご存知でしょうか?歴史が浅い職種のため、馴染みがない方もおられると思います。私は主に集中治療室にて勤務しており、体外式膜型人工肺(ECMO)や人工呼吸器、血液浄化装置などをはじめとした、生命維持管理装置の操作や保守管理を行っています。その他にも、DMAT活動を通して災害医療、ミャンマーでの国際医療協力、医療機器開発や研究などに挑戦しています。コロナ禍はCEの役割をより鮮明にしました。今できる最大限のことを実践し、CEとして少しでも世の中の役に立てるように努力していきます。



ECMOの回路チェック

臨床工学センターHP



病院内の様々な部署で活躍するCEの様子が掲載されています!

★ レシピエント移植コーディネーター

(臓器移植医療センター) 山下 里美さん



レシピエント移植コーディネーターとなり、早くも7年となりました。患者の皆さま方がスムーズに移植手術へ向かい、移植後も快適に過ごせるよう、日々、調整をさせていただきます。患者の皆さま方をはじめ、移植医療に関わる方との出会いは一期一会、とても貴重なものです。ともに移植という一つの目標に向かって、それぞれの思いを共有することで、私自身も成長させていただいています。移植医療に関わる皆さまの安泰を願い、これからもより良い移植医療を目指して、精進して参ります。

★ 医療ソーシャルワーカー【MSW】

(総合患者支援センター) 桐山 陸さん

こんにちは。医療ソーシャルワーカーの桐山と申します。医療ソーシャルワーカーは、医療費や生活費の心配や、福祉制度についての相談を患者さんからお聞きし、適切な情報提供を行っています。また、退院後の生活に不安のある方へ、医師や看護師等の多職種と連携しながら、在宅へのサポートをさせていただきます。一人ひとり不安や困りごとは異なると思います。そのため、患者さん・ご家族、それぞれに真摯に向き合い、サポートさせていただくことを心掛けています。ご相談がありましたら、ぜひ総合患者支援センターへお立ち寄りください。



★ 病院長

金澤 右先生



毎朝7時半に病院に来て、大体夜8時過ぎに帰宅しています。その間、たくさんの人に会い、たくさんの会議に出席し、たくさんお喋りして、たくさん読み書きをし、たくさんメール処理しますが、基本的には、職員の皆さんにちゃんとお給料を支払えるようにすることが最大の使命で、最大の仕事だと思っています。



うれしいことは、職員や患者さんから挨拶をいただいたり、話しかけていただけのことです。「今年のスイカはどうでしたか?」と聞いていただけたときは、とてもうれしかったですね。皆さん、move onファンですね!今年はオクラ(写真左)にしました!